

外国語科学習指導案

第5校時 児童数28名

第6学年3組 指導者 湯澤 宏江

ALT Marcel Williams

1 単元名 Unit2 Welcome to Japan

2 単元目標

- ・ 日本の行事や日本でできることを紹介したり，世界に広まる日本の文化について理解を深めたりすることができる。 (知識・技能)
- ・ ALTの家族に，日本の行事や日本でできることなど紹介したいことについて考え，分かりやすく伝えることができる。 (思考・判断・表現)
- ・ 日本の行事や日本でできることをより分かってもらうために，紹介の仕方を工夫しようとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元観

(1) 単元について

本単元では，これまでの外国語活動で慣れ親しんできた語句や表現を使い，日本の行事や日本でできることを外国の方に分かりやすくかつ魅力が届くように紹介し，日本のよさを伝えることを目指している。外国語科の「学びに向かう力，人間性等」に関わる目標(3)に「外国語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」とあり，自国の文化を紹介する中で，文化に対する理解を深め，コミュニケーション力も高めることができる内容である。6年生の総合で「日本のよさ」を学習するため，その内容とも関連付けて指導していきたい。また，5年生で学習した「I want to go to Italy」の行きたい国を紹介する単元で学んだ伝える視点や文型もこの単元で生かすことができると考える。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は，授業の際，グループやクラスなど大きな集団の中で自分の考えや思いを伝えることに苦手意識をもつ児童が多い傾向がある。外国語に関するアンケートの結果を見ると，88%の児童が「英語で先生や友だちとやりとりすることは楽しい」と答えている一方，「グループやクラスの前で英語で話すことは楽しい。」と答える児童は65%であった。これは，人に自分の意見や行動がどう見えるかを気にしていることや発表する自信がないことが理由の一つだと考えられる。そのため，この単元を通してグループやクラスの前で自分の意見を伝える機会を多く作り，ペアから集団へと練習の形態を変えながら，自信を高め意欲的に発話できるよう環境を整えていきたい。また，4つの大切を見直し，相手を大切にする意識を高めさせていきたいと思う。

具体的には「日本でできることカード」を使ってグループで活動したり，スモールトークの中で表現を練習したりすることで，児童に自信を付けさせてから自分の考えを発表できるようにしていきたい。また，授業の最初には学習内容に興味をもたせたり，基本を身に付けさせたりするためにゲーム性のある活動を取り入れたりして，楽しみながら学習に取り組めるように工夫していきたい。

(3) 研究主題との関連

児童が主体的にコミュニケーションを図るためには、相手に対して自分も伝えたいという思いをもつことと、コミュニケーションを図る必然性が重要であると考え。今回は日本に行きたいと思っているALTの家族に、日本の行事や日本でできることをビデオメッセージで伝えることを単元のゴールとして、伝えたいという思いをもたせたい。また、児童の考えを引き出しながら、スモールトークで日本でできることを紹介する表現の例を与え、活動の中で定着させ、自信をもって相手に伝えられるような雰囲気を作りたい。（仮説1）

反応するための言い方を身に付けるとともに、「4つの大切」を意識し、相手を尊重し、お互い聴き合う態度を育てたい。（仮説2）

単元を通してウォーミングアップでゲーム性のある活動を取り入れ、繰り返し英語を聞いたり、発話したりすることで、英語の単語や文型に慣れ親しんで、楽しみながら英語を話せるようにしたい。（仮説3）

以上の取組みにより、本校の研究主題である「相手意識をもち主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感できる外国語活動・外国語科を目指して」に迫りたい。

4 単元計画及び評価計画（総指導時数7時間）

聞く…聞 読む…読 話す（やり取り）…や
 話す（発表）…発 書く…書

時	目標（◆）と主な学習内容	評価			
		知	思	態	評価規準【評価方法】
1	◆日本のよさについて考え、行事の言い方に慣れよう。 ・【Introduction】 JTE と ALT の会話を通して、本単元のゴールとその達成に向けての必要技能を考える。 ・【Let's think】 「日本のよさ」について伝えあう。 ・【Story】アニメーション映像を通じて単元の内容を理解する。 ・行事名を英語でどのように言うか、確認する。 ・【Let's listen and point】3 ヒントクイズを聞いて、答えとなる行事の写真を指す。	聞			記録に残す評価は行わないが、児童の実態を把握するための評価を行い、おおむね満足な状況に至らない児童の支援を行う。 【観察】
2	◆季節ごとの行事の言い方に慣れよう。 ・【Introduction】 ALT が自分の出身国の行事について紹介している動画を見て、内容を確認する。 ・行事ビンゴをやり、行事の名前を確認する。 ・【Let's watch】step1 の表現を確認する。	聞			In（季節），we have ～の表現を理解し、季節ごとの行事について聞き取る技能を身に付けている。 【観察・振り返りカード】

	・【Let's listen】季節ごとの行事についての会話から、話題になった行事を聞き取る。 ・【Let's chant】チャンツを使って、Step1 の表現に慣れる。				
3	◆好きな季節とその行事を伝えよう。 【Small talk】「好きな季節」について、英語で話す。 ・行事名当てミッシングゲームをグループで行い、行事の表現を復習する。 ・【Let's try】好きな季節とその行事を伝え合い、クラスでいちばん人気がある季節と行事を知る。 ・【Plus one】友達の発言に答えて、会話を続ける。	や			In (季節), we have ~ の表現を理解し、好きな季節の行事について話す技能を身に付けている。 【観察・振り返りカード】
4	◆日本でできることを伝える言い方を知ろう。 ・【Warm-up Activity】日本らしいものを題材にした3ヒントクイズを行い、今日の学習内容につなげる。 ・【Let's watch】step2 の表現を確認する。 ・【Let's Listen】日本のことを紹介する音声ガイドから、説明に合った写真を選ぶ。 ・【Let's chant】チャンツを使って、Step2 の表現に慣れる。 ・【Activity】グループで小カードのイラストを見ながら日本でできることを紹介する。	聞			You can see / eat / visit / enjoy...などの表現を理解し、日本でできることについて聞き取る技能を身に付けている。 【観察】
5 (本時)	◆日本でできることを考え、その魅力を伝えよう。 ・【Let's Review】写真を見て、その写真に合う感想を述べる。 ・【Small Talk】前時の授業で使用したカードについて教師の会話を聞いたり、英語で伝えたり、感想を言ったりする。 ・【Let's try】グループで、日本でできることを紹介し合う。 ・【Plus one】グループ内でおもしろいと思ったものを1つ選び、クラス全体に紹介する。	や			You can see / eat / visit / enjoy...などの表現を理解し、日本でできることについて話す技能を身に付けている。 【観察・振り返りカード】
6	◆日本の行事やできることを紹介する文を考えよう。	書			Unit2 で学習した表現を使って、日本の行事やその

	・【Let's watch and think】世界の友達の動画を視聴して、その国でできることを聞き取ったり、自分の発表に役立つ表現を確かめたりする。 ・【Let's write】日本の行事を紹介するビデオメッセージの内容を考える。				時にできることについて書く技能を身に付けている。 【ワークシート】
7	◆日本に興味をもってもらうために、日本の行事を紹介しよう。 ・【Let's listen】これまで音声で慣れ親しんだ語句や表現を確認する。 ・【Let's speak】日本の行事やその時にできることを紹介するビデオメッセージを作る。		発	発	日本の行事について、聞き手に伝わるように工夫して発表している。 【観察】 より相手に伝わるようにジェスチャーを用いるなどして表現を工夫している。 【観察】

5 本時の指導

(1) 題目 日本でできることを考えて、そのみ力を伝えよう。

(2) 本時の目標

・ You can see / eat / visit / enjoy…などの表現を理解し、日本でできることやその魅力について伝えることができる。
(知識・技能)

(3) 授業の観点

・ウォーミングアップで画像を使って児童が自分の考えを表現したことや、スモールトークの際に発表に必要な文型や語彙を繰り返し聞いたり発話したりしたことは、グループ発表で自分の考えを主体的に伝え合う上で効果的であったか。また、中間振り返りを行うことで、より相手意識をもった発表となったか。

(4) 本時で慣れ親しませたい言語材料

・ In Japan, you can see / eat / visit / enjoy ～. (できること)

It's delicious / interesting / exciting / fun / cool / beautiful / cute / great / nice / good .

(魅力を伝えるひと言)

過程及び児童の活動	学級担任の活動	ALT の活動	指導上の留意点
1 あいさつをし、英語で歌を歌う。 S: Let's start English class. S: I'm good.	・英語であいさつをする。 Good afternoon, everyone. Let's sing a song.	・英語であいさつをする。 How are you today?	・楽しく英語を学習する雰囲気をつくる。
2 魅力を伝える時に使う単語を確認し、画像を見て感想を述べる活動をする。 S: It's cute.	・いくつかの画像を提示し、感想を尋ねる。 What do you think about this picture?	・単語の発音の模範を示す。	・本時で使う単語や文型に慣れ親しませる。 ・1つのものに対して、複数の見方があることにふれる。
3 本時のめあてを考え、確認する。 【Today's goal】 日本でできることを考え、そのみを伝えよう。	・本時のめあてを考えさせ、提示する。		・これまでの学習の流れや前回の振り返りについてふれ、目的意識をもって学習に取り組めるようにする。
4 「日本でできること」についてスモールトークをする。 S: It's beautiful.	・前時までに学習した内容について振り返りながら、最初は教師同士、その後、児童とやりとりする。 Look at this picture. What can we do in Japan? What do you think about Mt. Fuji? ◎積極的に発話できない児童も自分の意志を表示できるように、全員が声を発する機会を設ける。	・JTE とやりとりをする。 ・児童ともやりとりをする。 You can see Mt. Fuji. It's great.	☆イラストを使いながら例を挙げ、やりとりの中で児童が主体的に活動できる雰囲気をつくる。

5 活動① 【Let's try】 ・教師の会話を聞く。 ・伝えるために使う単語や文型、Response の表現を確認する。 ・ペアで伝え合う。 In Japan, you can eat / see / enjoy / visit ～. It's ～. / I like ～. ・グループで伝え合う。 ・途中で中間振り返りをし、4つの大切を意識して活動できていたか、振り返る。	・デモンストレーションを行い、活動のやり方を示す。 In Japan, you can visit Nikko Toshogu. It's great. What do you think? ・児童が考えを伝えやすくするために、使う語句を黒板に示す。 ※相手が発表したことに対して称賛したり、反応したりする態度を忘れないことを活動前に説明し、自己表現がしやすい雰囲気をつくる。 ◎つまづいている児童を支援する。	・JTE と活動のやり方を示す。 In Japan, you can eat manju. I like it. Do you like manju? ・発音の支援をする。	
評価【評価の観点】 日本でできることとその魅力を伝えることができる。【知識・技能】 （評価方法）〔活動の様子・ワークシート〕 <おおむね満足できる状況> 日本でできることと魅力を、必要な語句・表現等を用いて、友達に伝えている。 <十分満足できる状況> 必要な語句・表現等を進んで用いながら、日本でできることとその魅力を友達に伝えたり、反応を示しながら聞いたりしている。 <おおむね満足できる状況に達していない児童への手立て> 英語で表現できるように、個別に表現の仕方を指導する。			
6 活動② 【Plus One】 ・グループ内でおもしろいと思ったものを1つ選び、発表する。			※友達のよかった点を発表してもらい、よさを認め合う雰囲気をつくる。

7 本時の学習を振り返り，ワークシートに記入する。	・ 振り返りの項目に沿って記入するように助言し，次時への意欲を高められるようにする。	・ 記入の様子を見守る。	
8 あいさつをする。 S: Let's finish English class.	・ 次時の予告をする。 英語であいさつをする。 See you.	・ 英語であいさつする。 See you next time.	・ 楽しく英語を学習する雰囲気の中で活動を終えるようにする。

6年生 「Unit2 Welcome to Japan.」

1. 授業の実践記録

(1) 相手意識をもち主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

【児童が伝えたい思いを引き出すための場面設定】

児童が相手意識をもち主体的にコミュニケーションを図るためには、相手に対して「自分も伝えたい」という思いをもつことが大切だと考えた。そこで、以下のことを実施し、思いをもてるように働きかけた。まず、本単元は、日本の行事やできることを紹介することがメインの活動となるので、日本のことを知りたがっている ALT の家族に、日本の行事や日本でできることをビデオメッセージで伝えることを単元のゴールと設定し、本単元の1時間目に ALT と JTE のスモールトークを聞かせた。その際、児童の考えを尋ねながら単元のゴールを設定し、児童が自分事として課題に取り組んでいけるように働きかけた。二つ目に、どんなことを伝えたらよいかと「日本のよさ」について考えさせて意見を出したり、ALT の自分の国の紹介動画を見せたりすることで、単元のゴールを児童がイメージしやすいようにした。三つ目に、ビデオメッセージで伝えるという課題にすることで、どのように伝えれば相手に思いを分かってもらえるかをグループで話し合ったり、練習したりする中で、相手意識をもって伝える態度を高めた。



日本のよさについて意見を共有する場面

ALT の紹介動画を聞いて、内容を確認する場面

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

【豊かな言語活動につながるスモールトークと中間振り返りの工夫】

自分の思いや考えを豊かに表現できるようにするために、この単元では以下のようなステップを踏んで、言語活動を行った。まず、スモールトークの中で音声を十分に聞かせ、それらの表現が言えるように練習させる。次に、スモールトークで様々な表現を知り、それを頼りにしながら自分の考えを構築していく。それらにより、自信をもって表現できる児童が育成できると考えた。

さらに、第5時の授業では、日本でできることを紹介するために、端末を使って画像を用いながら表現することで、より自分の伝えたいことが伝わり、自信をもって表現できるように指導した。その活動をする時に、スモールトークの中で教師が使って示していた What do you think? や Do you like ~? などの質問を確認することで、日本でできることを紹介するだけでなく、そのことについてグループで相手の考えを聞き合うことができるように働きかけ、やりとりあふれる言語活動を目指した。

さらに、児童が相手意識をもって言語活動をする際には、相手が理解しやすい話し方や話しやすい態度を身に付けることが必要である。そのために、言語活動の前に「4つの大切」を意識するように伝え、それを中間振り返りでできているか問い掛けたり、モデルとなる児童を紹介したりするなどして、よりよい態度で言語活動ができることを目指した。



スモールトーク時の教師とのやりとり



端末を用いて発表する場面

（3）英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実現するための工夫（仮説3）

【単語や文型に慣れ親しめるような活動の工夫】

言語活動を十分に行うためには、その活動で使う単語の習得や文型の理解が必要だと考える。そのような表現を身に付け、英語に苦手意識をもつ児童も楽しみながら学習できるように、ゲーム的な要素のある活動を多く実施した。3ヒントポインティングゲーム、単語ビンゴ、ミッシングゲーム、写真で一言ゲーム等を通して、単語や文を聞いたり発音したりし、それらに慣れ親しむことができると考えた。また、授業のウォーミングアップに歌を歌うことで、英語の音や単語に楽しみながら慣れ親しむことができるよう、帯活動として計画した。



3ヒントポインティングゲーム



写真で一言ゲーム

2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 相手意識をもち主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

○ALTの家族に伝えるという最終ゴールを設定したことによって、児童の伝えたい気持ちを高めることができた。また、日本のよさを日本語で考えさせたことで、伝えたい中身もイメージしながら、授業を進めていくことができた。ALTがイギリスを紹介した英文の動画を繰り返し見ることで、発表の中身や態度でどのようなことに気を付ければよいのか考え、自分の発表に生かすことができ、効果的だった。

○班で協力して作成することで、伝える内容を助言し合うなど、よりよい発表にしようとする姿が見られた。また、児童が班内で発表練習をする中で、ジェスチャーや視線など相手に伝わる態度についても考え、「4つの大切」を意識しながら発表を工夫することができた。

●児童が伝えたい思いを引き出すことはできたが、ALTの家族の状況や趣味、好みをインタビューするなど、より相手を知って伝えるという働きかけができなかったもので、次回は改善したい。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

○スモールトークで様々な表現を知り、それを頼りにしながら自分の伝えたいことや言い方を理解し、自信をもって表現することができる児童が多かった。また、第5時のグループ発表の時も、積極的に相手に問い掛けて、考えを引き出しながらやりとりし、人によって感想が違うことに気付く児童も見られた。

○「4つの大切」を意識できているかを中間振り返りで確認することで、不十分だった児童もその後よりよい態度で言語活動ができた。また、その時に言えなかった表現も確認することで、より豊かな文章表現や反応をすることができた。

●端末を使用する時に話し手、聞き手がそれぞれ画面を見てしまい、アイコンタクトが不十分になってしまう場面が見られた。見せる、話す、質問し合う時にめりはりを付けて、より相手意識を高められるような態度を育成したい。

(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実現するための工夫（仮説3）

○ゲーム的な要素のある活動を取り入れることで、単調になりがちな単語や文型を楽しみながら身に付けることができた。写真で一言ゲームは楽しみながらも、自分で考えて表現したりする要素を盛り込むことができ、よりよい活動となった。

○英語で歌を歌うことで、本物の英語の音やリズムに触れて、聞く力や英語らしい発音で話す力が高まった。

●ゲーム的な要素のある活動において、児童は楽しみながら単語等に慣れ親しむことができたが、互いに伝え合うような対話的な活動を本単元では取り入れることができなかった。より対話活動を意識した内容も今後取り入れていきたい。

●ウォーミングアップとして歌の活動を行っていたが、歌えるように練習するために、多くの時間を割いてしまうことがあった。また、曲選びについては、児童の興味と語彙やテンポの難易度がちょうど合う曲を選ぶことが難しく、課題である。